

科目名	国際協力論特講	担当者	イケガミ キョコ 池上 清子	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>国際化・グローバル化を特質とする現代において、国際情勢の帰趨と世界の中の日本のあり方に対する広い視野と鋭敏な感覚を持ち、経営・経済・政治・行政・国際関係・言論等の分野で指導的、先端的な役割を演ずる人材を育てるといふ国際情報専攻の大目的に沿った科目である。国際社会の現実的動態、国際社会と日本との関連等に関する学問的認識を得ることを目的とする。</p> <p>先行研究などの情報検索方法や自分の考えを構築することを含めて自律的な研究遂行能力を習得し、さらに、変化する社会環境や多様な価値観を読み解き、正当な批判と評価を行う判断力を養う。</p> <p>国際支援や援助に関する基本的な枠組みと理念を考察する。</p>		
到達目標	<p>1)国際協力に関する理念、ミレニアム開発目標 (MDGs) と持続可能な開発目標 (SDGs) の歴史的な意義、開発と、平和、平等、公正、ジェンダー、人権などの概念との接点、開発プログラムの策定過程を習得する。</p> <p>2)開発目標であるグローバルパートナーシップのもつ意義、国際援助の担い手のマッピング、携わる多様なプレーヤー(国際機関、開発途上国と先進国政府、市民社会、企業、財団など)の役割と課題を知る。</p> <p>3)アジアとアフリカの置かれている状況の差を認識する。国際協力のニーズの把握。</p>		
学修方法	<p>レポートを通じた学修は、課題に沿って作成し、manabaを通じて教員のコメントなどを参考にして修正を重ねて、最終版としてまとめてから、manabaに改めて最終版として提出するプロセスを経る。教員とのやり取りは、manabaを通じたコミュニケーションを前提とする。</p> <p>新しい情報を常に入手することが重要となるので、関連するWebsiteや新聞記事などの分析は欠かせない。そのため、日常からの情報収集にも配慮する。</p> <p>具体的には、教材や参考図書を読み込むこと、それらを吸収したうえで、レポートの課題に対する自分の考え方をまとめる。</p>		
スケジュール	<p>前期レポートは9月中旬、後期レポートは1月中旬となっている。従って、以下のようなスケジュールが目安として考えられる。</p> <p>前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も2017年1月課題提出締切日までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	<p>課題に沿った論理構築がなされているか。</p> <p>3,000～4,000字という短い字数で、自分の意見をまとめられているか。</p> <p>十分に教材を読み込んでいるかどうか。</p> <p>参考文献、先行研究などの情報検索が十分かどうか。</p> <p>脚注などレポート作成に必要な情報が正確に含まれているか。</p>
	平常評価	20%	manabaを通して行われるコメントに関する修正度合
履修者への要望	<p>成績の評価基準にも記したように、論理的であることと自分の意見をまとめることを主眼としているので、どんな小さな点でも構わないので、自分の考えや気づきを大切にして、レポートを書いていただきたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 山本玲子編『衛生・公衆衛生学 社会や環境のシステムと健康との関わり』 教材名： (アイ・ケイコーポレーション, 2015年) ISBN978-4-87492-309-2 2,700円+税</p> <p>開発の在り方に関わる諸問題について、特に開発協力の現場、理論的な国際協力の必要性、などを包括的に取り扱っている。国際協力に関与しようと思う人にとっては実践的なヒントがある。</p>
参考図書	<p>国分良成編『東アジアにおけるシヴィル・ソサエティの役割』 (慶応義塾大学出版会, 2007年) ISBN: 978-4-76-641378-6 2,200円+税 吉田康彦編『21世紀の平和学』(第2版) (明石書店, 2005年) ISBN:978-4-75-032205-6 2,400円+税</p>
履修上のポイント	<p>以下の点に留意して、レポートをまとめること。</p> <p>(1) 開発に向けた国際協力の効果 (2) 持続可能な開発目標の歴史的意義, 成果, 課題 (3) 開発と, 平和, 平等, 公正, ジェンダー, 人権などの概念との接点 (4) 開発プログラムの策定過程</p>
レポート課題 1	<p>国際協力の必要性を, 様々な角度から検討して自分なりの議論を展開する。特に, 格差の是正, 公平性などの原則を踏まえながら, 3,000字程度でまとめる。十分にこのテーマを学び, 議論していると考える場合には, 必要ないというスタンスから, 同様に必要ないことを議論する。 留意点: 開発の理念についての議論が中心となる。</p>
レポート課題 2	<p>持続可能な開発の定義を理解しつつ, 持続可能な開発目標(SDGs)が内包する課題を挙げつつ, 2030年の目標達成期限までの課題を想定し, 自分なりの提案を, 3,000~4,000字程度にまとめる。 留意点: 現在進行形のテーマなので, Web検索なりで情報を収集してからレポートにまとめること。出版されている書籍よりは論文が主となる。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： NPO 法人いきいきフォーラム 2010 編 教材名： 『シニアのための国際協力入門』 (明石書店, 2004年) ISBN:978-4-75-032027-4 2,400円+税</p> <p>どうすれば開発や援助が開発途上国の市民一人ひとりの生活の質を高めることができるのかという課題を, 国際協力を幅広い領域から取り上げる。シニアの視点だけではないが, 高齢化する日本の社会を踏まえて, より多くのシニアが国際協力に関わってほしいという趣旨の書籍である。オムニバス形式となっていること, ミクロ(個人の視点)からスタートしながら, ミクロとマクロ(グローバル)のつながりを重視する。実務と研究とを橋渡し得る点を提示する。</p>
参考図書	<p>佐藤寛・青山温子編『シリーズ国際開発 第3巻 生活と開発』 (日本評論社, 2005年) ISBN:978-4-53-555375-0 2,800円+税</p>
履修上のポイント	<p>以下の点に留意してレポートをまとめる。</p> <p>(1) 目標として掲げられるグローバルパートナーシップのもつ意義 (2) 国際援助の担い手のマッピングを基にして, 国連機関間の調整機能と能力, 政府開発援助(ODA)の役割と課題, 国際機関の持つ独自性と課題, 市民社会, NGOsの役割と課題, 市民社会, NGOsの役割と課題を知る。特に, 調整に関する情報を収集しておく。 (3) アジアとアフリカが置かれている開発状況の違い</p>
レポート課題 1	<p>アジアまたはアフリカから1か国を選択し, その国について, 関連する開発援助機関・関係者の調整について, 現状と課題を分析して, 3,000~4,000字程度にまとめる。 留意点: 国連が毎年出版するMDGsレポートから, インドネシアの開発指標や開発段階を把握してから始めると, レポートは書きやすい。</p>
レポート課題 2	<p>日本国内の援助機関・関係者の調整について, TICAD(東京アフリカ開発会議)を事例として, 現状と課題を分析して, 3,000字程度にまとめる。 留意点: TICADの役割にも触れること</p>